

伸縮装置 乾式止水材を採用

米里高架橋など補修 床版、橋脚を繊維補強

NEXCO東日本北海道支社札幌管理事務所が平成23年度から進めている「道央自動車道札幌管内橋梁補修工事」は最盛期を迎えている。同工事のうち米里高架橋は、橋長511m（最大支間45・9m）、幅員9・75mの鋼15径間板桁橋。下部工は壁式橋脚。供用から28年が経過している。工事は、同橋が伸縮装置からの漏水によって桁端部および橋脚の劣化が進んでいいため、断面修復による補修を行うほか、重複・並行する国道に対するコンクリート片の剥落防止対策（連続繊維シート）も実施するものだ。

注目工事

（同部情報）

道央自動車道札幌管内
橋梁補修工事は、工事数
（当初計画）が、コン



施工の様子

クリート剥落防止対策、方材（C-3）系、g
工9880平方m、鋼桁
13（1）系、コンクリ
ート構造物補修工162
8平方m、伸縮装置補修
工42m、など。現在は約
70%の進捗率だ。現在
コンクリート構造物補
修工ではウォータージェ
ットによるくり後、断
面修復材による補修を
している。このうち大断面
欠損部では、床版は吹付
モルタル、下部工（橋脚）
はグラウト注入後、アラ
ミド繊維や炭素繊維補強
による耐力向上を実施し
ている。



補修中の米里高架橋

施工業者と伸縮装置補
修材メーカーは、米里高
架橋の腐食原因の伸縮装
置補修に、本州で実績の
ある乾式止水材（寒冷地
タイプ）を採用した。乾
式止水材は①道路上から
の積雪荷重への耐力、②
防塵層の凍結、③凍結防
止剤散布による母材の腐
食などに対応できるよ
う、耐熱シリコンの塗布
数を標準の3倍として耐
凍結性を向上させ、挙動
吸収層の強度を向上させ
た。

元請の宮下美智雄現場
代理人は「伸縮装置補修
工に関しては、昨年度施
工したものを追跡調査の
上、不具合がないことを
確認して今年度の施工を
行った」とし、「高欄の
施工費4億9665万
円。工期は12月17日。

中井商工(株)様の乾式止水材『プレスアドラー』が橋梁新聞に掲載されました。

「橋梁新聞」（平成25年8月1日）より抜粋